

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	藤原 海考
主な担当科目	
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	演奏活動等の研究活動を通じ声楽やオペラの指導法の向上を図る。更に、学生の技術向上のため様々な教育システム及び講座等を導入し、学生に舞台経験を積ませる企画を模索する。
2024年の教育に関する自己評価	演奏活動等の研究活動を通じ声楽やオペラの指導法の向上をおおむね図ることができた。また、学生の技術向上のため様々な公開講座などを通じて学生に舞台経験を積ませる企画を模索することができた。
2024年のFD活動に関する自己評価	主に声楽部会及び声とことばコースでFD活動を行い、特に声とことばコース授業での活動はおおむね積極的に行ったと言える。
授業改善のために取り入れた研修内容	声楽部会及び大学院オペラの授業、そして声とことばコースの授業では頻繁に教員相互で打ち合わせを行い、一定の成果を挙げたと思われる。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1198 教員名:藤原 海考

1)アンケート結果に対する所見

オペラ特別演習①に関して:オペラコースの学生 16 名に対し 4 名の回答ということで、全体の意見として集約できているかは分からないが、アンケートに回答してくれた学生の意見に真摯に向き合いたい。

4 名のうち 3 名は、この授業を受講して「ためになった」、1 名も「少しためになった」、との回答で、複数担当教員の授業展開、そして複数の学生への対応は大きな隔たりはないと考える。一方で自由記述に関して、授業の方向性や運用について疑問を持っている学生もいることがわかり、担当者と協議しながら善処していきたい。

2)要望への対応・改善方策

数名の自由記述の意見から、クラス編成に関してもコースの明確性に関しても、教員側がコンセプトを十分に理解できるまで説明できていなかったと推測できる。

日本語に難がある留学生が多くなり、不公平感を覚える学生がいることも含め、運用に関しては今後検討していきたい。一方で大学院は研究機関でもあり、学生たちに主体性、自主性を養えるように指導する必要があると感じる。やや受動的な意見もあるのはそのためかと思われる。その都度、質問や疑問、不安を現場で解消していけるようスタッフ側も臨機応変に対応し、学生が十分に研究に没頭できるような環境を考えていきたい。

3)今後の課題

今回のアンケートに協力してくれたのは現 2 年次生と思われるが、新年度より各学生、個々の特性に合わせたきめ細かい指導を目的として授業を展開している。学期初めの音楽稽古は助演を入れず学生のみで演習を行う事で自身の音楽表現により向き合うようにし、かつ教室(及び指導者)を分けることで、それぞれの研究進度に合わせた指導を行っている。今後も学生の主体性の向上、留学生の対応の改善、そしてオペラの授業での教育目標を明確にし、更なる魅力ある授業を目指したい。

以 上